

声ノ霧

触れられない自然の「声ノ霧」に包まれる場所



今回の計画地は山形県にある宝珠山立石寺である。ここは松尾芭蕉が『閑さや岩にしみ入る蟬の声』を詠んだ場所である。立石寺は1015段の石段があり、今回はその途中に位置する休憩所を計画した。自然との距離を最大限近づけるような初源的な設えにした。この場所に座り息を整えた時、自発的な音がなくなり様々な自然の声に気付かされる。手に取れるほど近くに感じる自然の声と、それでも触れられない自然との隔たりを表現した。私はそこに「和」の儂さや風情を感じた。自然の中の自分というものを考えられる場所になることを期待する。